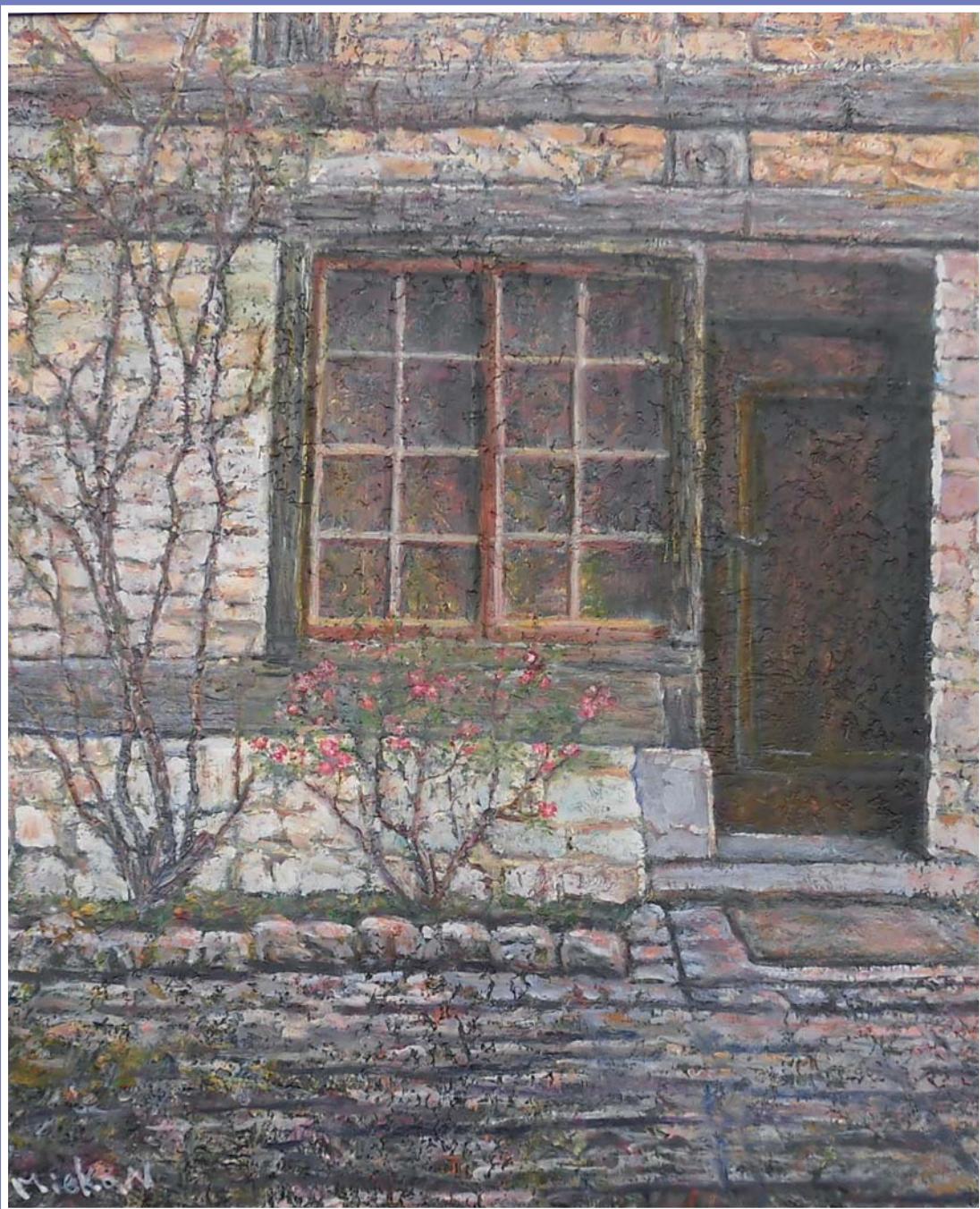


# やまざき文化

’22-3 \*No.41



穴粟市山崎文化協会

# 地域文化と「文化財登録制度」

宍粟市山崎文化協会会長 前野 良造



令和三年七月の新聞に「宍粟市初の国登録文化財」として山崎の酒蔵通りの古民家「中門前屋主屋」が国の登録有形文化財に指定されたことが報じられた。また八月の宍粟市広報でもこの文化財登録の件が紹介された。登録有形文化財建造物は、時代の特色をよく表した歴史的建造物で、再び造ることが困難なものを登録し保存を図る制度で、全国で既に一万件を超える建物が登録されているようだ。

「宍粟市で初」というとこのような建造物が宍粟には少ないような印象を与えるかも知れないが決してそうではない。事実、今回登録された建物周辺には同時又はより古く大きな酒蔵など県の景観形成重要建造物に指定された建物が集中していく城下町山崎の風情をよく醸し出している。また郊外に行けば旧大庄屋の屋敷や旧三日月藩医を務められた方の当時の屋敷が現存し、今も子孫の方々が住んでおられる。

この登録文化財制度は文化庁などの調査を経て登録基準を満たすと評価されたものが登録される。宍粟ではこれまで登録に向けた本格的な調査が行われていなかつたため「初、現在一件のみ」ということである。制度の認識度だけでなく、普段から見慣れた風景の中の身近な建物を文化財登録するという意識が働かなかつたこともその一因かもしれない。ただ、我々の住んでいる地域にはそのような貴重な建物が数多く存在し、一つの文化的特徴を示していくことも認識しておくべきだ。特徴ある地域文化を維持、振興していく上でも、このような登録制度を積極的に活用して、地域内の意識向上を図るとともに地域外へアピールすることは大切である。

宍粟市は今「日本一の『風景街道』づくり」を目指している。風景街道づくりを着実に推進する手段として、県の歴史的景観形成地区にも指定されている山崎地区や郊外の歴史的建造物の文化財登録をスケジュール立てて確実に進めることは大きな意味がある。

文化財登録申請は市や県行政の手続きを経て行われるが、候補選定や地域と所有者の理解や了解を得る手助けをするなど文化協会が果たせる役割もあるのかもしれない。

◇ 目 次 ◇

地域文化と「文化財登録制度」

母栖の鶏

特別寄稿 故郷への思い

五十年ぶりの帰還生涯青春！記者魂！  
ふるさと愛はボチボチと…

短歌

柏原城について

発足七十周年の新潮会

回想からの展望

感

多様なおもしろさを味わう

雑感

私の人生詩吟と演歌

山崎町民合唱からのお願い!!

宍粟美術協会の今後の活動に向けて

この頃、思うこと  
ー人生と歴史についてー

和太鼓の魅力

和太鼓の中で

尺八とお琴

一年半ぶりの定期演奏会

久し振りの舞台と笑顔

来るべき時期に備えて

川柳破丸会

山崎・加生・つた・いさわ冠句会

事務局だより

表紙題字

表紙後記

挿絵

前野 良造  
浅田 耕三  
大坪 敏朗

2 1

堂元 光  
池田 春美  
片山 昭悟  
宇田 詔三  
深川 幸子  
春名 芳子  
塚田 英夫  
前田 茂雄  
木下 富夫  
坂東寿賀幸  
高野 和子  
伊藤 一郎  
木下 豊子  
西山 真菜  
下里 崇洋  
石田 陽子  
小林由佳子  
長川 伸介  
中瀬 公三  
伊藤 次郎  
大谷 司郎  
西江美恵子  
山部 桂翠  
福岡 久藏

25 25 24 23 22 22 21 21 20 20 19 19 18 18 17 17 16 16 15 15 15 13 11 9 6 2 1

# 母 栖 鶏

## 浅 田 耕 三

武はそれを「楓」できいた。

「楓」は平之口の角にあるスタンドバーで、といつても止まり木が七つ八つと、テーブルが五脚一列に並んでいるだけの貧相な店だ。狭い入口に「B A R 楓」と書いたガラスの看板だけが不似合いに大きい。

が、太ったお内儀が陽気なと、造る料理がわりにうまいので結構はやっていた。

その男は一番奥の止まり木で飲んでいた。

武の初めて見る顔だった。小柄で陽灼けして、薄く口髭をたくわえ、小さい軀のわりには声が大きくてしゃべる男だ。

「八軒あった家が今は五軒、三年の間に三軒が山を下りた。下りがけに、飼うとった鶏を放つたらかしたんよ。棄てられた鶏がな、おもしろいやろ、山へ入った。餌がもらえんなら山に入るよりしようない。ところが一、二年のうちにこいつらが立派に野生化してな。数も増えて今じゃ十四、五羽もの鶏が母栖のカシやナラ、アシビの林の中をわがもの顔に飛び回つとるんよ」

「餌はあるんじやろうか」

隣で飲んでいる多田さんが訊いた。

「山の中じや。木の実がある。虫がおる。落葉を掘ればみみずが出てくる。みみずは鶏の大好物じやもんな」

林業試験場の大場さんが

「みみずというてもそいつはドバみみずじや。あれはごつつから食いであるだろうな。雨のあとなど山道歩いとつたら、地面によろりと這うとる。三十センチ程もあつて青や紫色にぬめぬめ光つて、蛇か思うてびっくりして跳びのいてよう見たらこいつがみみずじや」

大場さんも多田さんも「楓」の常連である。

十四、五羽の鶏が山の木の枝から枝へ飛翔し、高い所でコケツ、コケツと鳴

いている、ほんとの話だろうか。武は初めちょっと首をひねったのだがー。

口髭は一宮町に住む香崎さんという當林署の山仕事をしている人物だそうで、よくしゃべりよく飲むけれど、でたらめを言うような男とも見えぬ。

「日野さん、おもしろいぞ。鶏じや、野生の鶏」

翌る日の夕方、武は早速、日野家へ行って勤めから帰ったばかりの日野さんにしらせた。日野さんはながき君と、毛針釣りの用意をしていたが、その手を停めて、

「野生のにわとり？」

「うん、飼主が山を棄てついでに鶏まで棄ててな。そいつが山で増えて逞しく生きておるそうな」

「どこの山」

「母栖や。母栖の山」

「もす？」

日野さんはF電気の社員で、三年前に大阪の門真から移ってきて、武の家から二百メートル離れた農家の空家を借りて奥さんとながき君と三人で住んでいる。母栖の事など知らぬのである。

「寿永のむかし、一の谷のいくさに敗れた、三位中将平維盛の妻富士の局との侍女達が、満友といいう近臣とその郎党に守られてこの地に落ち延び、人目を避けて山の上へ隠れ棲んだ。標高五百三十メートルの山上や、谷間に田を拓き、斜面を耕し畑を作つて命をつないだ。母栖の土蔵には源平時代の鎧や兜、槍、刀が今も収められている。維盛の妻が栖んだ所からついた名が母栖。が、その末裔、つまり今の母栖村の人達にとつては、ちょっと買物に出ようにも麓の杉が瀬村まで一時間半もかけてつづら折りの小径を歩かなければならん。

第一、その道を毎日学校へ通う子供が可哀想でな。昭和の初めには十二軒もあつたそながだんだん減つて、今は五軒が残つてゐるだけや」

「武さん、行こう、その鶏見に」

はたして日野さんの目が輝いた。

ヒゲの香崎さんの話によると、十四、五羽のその群を率いているのは一羽の

雄鶏で、そいつがまたとてつもない見事な雄、一群の中でも一きわ大きく、頸の所は深みのある焦茶色の羽におおわれ、ピンと張った尾羽根は黒味がかつた緑色に輝いているそう。

「その雄鶏が三十メートルの高い木の枝で勇ましくトキをつくり、地上に舞い下りるというから壯観じやろ」

そんな事まで聞かされて日野さんの血が騒がぬ筈がない。

「行こうよ、な、ぜひ行こう。今度の日曜、武さん、都合つくやろ」

バスで杉ガ瀬まで行き、村の中を抜けて山道にかかる。右に曲がり左に折れ、人一人が通れるだけの細い道を登る。急坂である。

「その雄鶏というのは、体形や羽根の色から察するに、多分卵肉兼用種のロードアイランレッドという品種やろう、と大場さんが言うとった。卵用種の名古屋コーチンや白色レグホンなんかよりずっと大きゅうて羽根に光沢があつて精悍で、ちょっとと闘鶏用のシャモを思わせる格好の鶏らしい」

大場さんは「楓」の常連客の中では一番のインテリで、その知識の豊富さは専門の林業にとどまらずあらゆる分野に及ぶ。

大体、林業や農業やあるいは畜産試験場の技師さんというのは、いつも難しい実験や研究ばかりしているから、申し合わせたように口調がおうようだ。学者肌で、世俗の事にはとんと欲がなくて、そして酒好き。不思議な程タイプが似ていると、これは永年洋品雑貨店を営み、世のすいも甘いも知りつくした、と自称する多田さんの説だ。

木蔭に入つて休む。

下から吹き上げてくる風が汗ばんだ軀に心地よい。

一宮町から山崎町へ、揖保川が白く光つて蛇行し、北は曲里から南は比地が歩危まで一望である。

ええなあ、壮快やなあ、日野さんは何度も深呼吸して、

「この次はきっとながきとさと子を連れてきてやろ。こんな所へ来たら一人共、どんなに喜ぶやろ」

ながき君は小学校四年生、体に軽度の障害があるが、元気な子だ。日野さん

は勤めの時以外は、いつもそのながき君と一緒に何かしている。しかし今日は特別で、ながき君はお母さんと買物に姫路まで出かけているのだ。

けれど、二人はその日、とうとう鶏に会えなかつた。

母栖の集落の背後の、スギ、ヒノキの林やカシ、クヌギの雜木林や、谷川のほとりといわず田の畦といわす半日かけて二人は歩き回つたけれど、鶏どもはどこに潜んだか、ついにたつたの一羽も姿を見せなかつた。

歩きくたびれて二人はへたへたと道端の草にすわつた。

「申し訳ない。おれが酔っぱらいのホラを真に受けたのかも知れん」

武が言つたら日野さんが首を横に振つた。

「いくら酔っぱらつていても、十人以上を相手に、そうシャアシャアとホラが吹けるもんやない。それに酔漢の出鱈目にしては話が凝り過ぎていい。鶏はきっとおるのや」

二人のすわつた道の下は、谷に向かってゆるやかな斜面がひろがる。が、谷の向こうは切りたつた岩角が灌木の中に点々と灰褐色の膚をさらす険しい断崖だ。

「武さん、あれは何や」

日野さんが突然立ち上がり叫んだ。右手の奥の方を指さす。すくと伸びた木が一本、他を圧して亭々とそびえ立ち、ウチワのように大きくあざやかな緑の葉の中に、白く、黄色味を帯びた南国風の花がぽっかりと、五つ、六つ、七つ・・・。

「鶏が木にとまっている、のやないやろな」

武がわらつた。

「いや、あれは朴の花。泰山木の花に似てるやろ。あの花は木の下からは、葉に隠れて見えんが上から見下ろすと大きゅうて白うて、ぱつと目につく花や」

「へええ、朴の花！」

日野さんは見惚れて

「初めてやな、朴の花なんて見るのは」

そして武の方を振り向いた。

「なあ、武さん。鶏はおらなんだけど来てよかつたなあ。朴の花は見たし、

木の樋もよかつた」

木の樋といふのは、二人が弁当を食つた洗い場にかかつてゐた樋だ。

谷から家の近くまで七、八十メートルの距離を、杉丸太の樋が三ツ又の脚に架けられ伸びてゐた。何とも豪快なもので、樋の端は水がほぼ四メートルの高さを滝の如く落ち、石がこいの貯水槽にたまつてそこからさらに緩い傾斜の樋を伝つて洗い場に流れてくる。

洗い場の水槽は直径七、八センチもあるケヤキか何かの丸太を二ツ割りにして中がくり抜かれている。そのまわりの溝には自生のわさびが、丸いつややかな葉を茂らせていた。

「そろそろ下りようか」

朴の花見にも堪能して一人が下りかけた時、下の道から籠を背負つた男の人が上がってきた。初めて出会う土地の人だ。

「ほう、鶏を見になあ。それはまあご苦労さんなこと」

春野さんと名乗つた。六十ぐらいのおだやかな目をした人だ。話をきくと、呆れたという顔でしげしげと二人を見る。よほど物好きな連中と思つたのだろう。

村にひと氣がないのは、二年前にここを下りた家の後取り息子の、今日は結婚式でどの家もお祝いに龍野へ行つてゐるのだといふ。

「で、ほんとおりりますか、そんな鶏が十五、六羽も」

「いや、もっと増えておりますやろ」  
「えっ、ほんとにおるんですけど、そんなに」

思わず声がはずむ。

「鶏は卵を生んで増えますからなあ。今じゃ三十羽近くにもなつとりましょうな」

「ど、どこにおりますか、その鶏は」

「さあ、どこにおりますかなあ。増えると餌を探すのも範囲が広うなつて、山をあちこち移りますやろ。三町程この道を登つた右手に、アシビの林がありましてな。そこをねぐらにしどりますさかい、そこまで行けばおるかも知れません」

礼を言つて二人はアシビの林をめざした。疲れていたし、陽も傾きかけていたが、二人共興奮して息せき切つて坂道を登る。やっと着いた。

アシビ、といつても可愛い灌木などではないのだ。四、五臓もの木の丈に太い幹、その上にこんもりと葉を茂らせ、葉陰は湿つて小暗い。

「やつぱりおらんなあ」

「うん、今日はどうやら外泊らしいな」

がっかりしてふと足元を見ると、尾羽根が落ちてゐる。淡い黄色の羽根だが太くてしっかりした羽根だ。

「そこにも落ちてゐるぞ」

「向こうにもある」

全部で六本、小さな羽毛はその辺にいくつも落ちてゐた。

「やつぱりほんとだつたのやなあ」

羽根を手にして二人は妙に感動した。

夕日が山上の木々を狐色に染め、谷底の人里を暗く翳らせてゐた。

日野さん一家三人と武と、四人はその年の夏休みと十月十日、十一月三日の合計三回、母栖へ登つた。武と日野さんは都合四回になる。が、不運にもついに鶏達には出会えなかつた。残念だつたけれど、しかし四人は、さほどには落胆しなかつた。鶏共はこの母栖の山塊のどこかにいる筈だし、それに、鶏には会えなくとも母栖は弁当の海苔巻きの、何だかむしょうにうまい所で、それは母栖という地名のせいかも知れなかつた。

村の人とも仲好くなつた。特に春野さんの家へは上がり込んで、いろいろと駆走にもなつた。

「鶏はその後も増えておりますやろか」と武は訊いてみた。

「いや、近頃はわしもあんまり見とらんが、村の者の話では三十羽以上にはなつとらんようじゃな」

「どうしてでしよう」

「野生にかえつた鶏はちゃんとそんな調節ができるんじゃなかろうかな。人間に飼われてゐる時は、ただもう無闇と卵を生むだけじゃが」

そしてふふっとわらった。

「この村の者は、何とかあの鶏どもの卵を見つけて食ってやろうと寄り寄り

言うておるんじゃがな。うまい卵が食えるぞって」

そりやそうだ、身動きならぬケージに飼われた鶏の生む卵と比べたらうまいに決まっている。

「ところがこれが、なかなか見つからん」

「見つかりませんか」

「うん、と春野さんはうなずいて

「ところでな、人が通ると木の上から降ってくる蛭がいるのを、あんた方ご存知か」

「ひる？」

「さよう。泉鏡花の書いた『高野聖』の中に出できますやろ。お出家が歩いていると、大きな蛭が木の上からぼたぼた降ってきて素膚の首や手に吸いつく話。あの蛭がこの山にもおりますのや。普通のやつより大きゅうて、こいつはなかなか始末が悪うてなあ」

なる程、と二人はうなずく。ちょっと蒼ざめてうなずく。「高野聖」なんてよく憶えていないがひどく氣味悪い話だった。それに出でくる蛭がいるとは。「鍋が谷」というシイやカシの群生した谷にそいつはおって村の者は困つておったんやが、この鶏が出て以来、ぱったりそいつが絶えてしまいましてな。どうやら鶏が食つてしまつたらしい

そんな鶏の卵やからさぞかしうまかろうと春野さんはわらった。

「卵が見つからんのは、高い木の枝の上にでも生むんでしょうかね」

「そりやそうじやろ。人間から独立した鶏がそうそう人間共に、大事な卵をわたしたりする筈がない。もう人間の所有物ではないのやもんな、あの鶏どもは」

それまで黙つてきていた日野さんが急にあははと笑つた。

「春野さん、そんなあんた、ええ加減な事言うたらいけませんなあ。食う気なんてほんとはまるつきりない癖に。もし卵見つけたら村中総出で保護するつもりですやろ」

二十数年前の話である。

今では母栖は電力会社の太陽光発電や架空送電など最先端技術の試験場である。

下から車で簡単にのぼれる。

四軒の家が今もある。

あの鶏どもはどうなつたか知らん。

この小説は著者が六十二歳の時、神戸新聞文芸欄に平成四年（一九九二）八月八日小説部門入選作品として掲載されたものです。今なお健在な著者との協議の上で今回本誌に取り上げさせていただきました。

本文末尾に、「二十数年前の話」とあることから昭和四十年代の頃と推測されます。



## 学ぶ楽しみ、故郷への思い

大坪敏朗

(元栗市山崎町出身)

話は二〇一九年の二月まで遡る。社長からの電話により役員を退任し会社と縁が切れる時期を知らされた。それは二〇二〇年の十二月であった。名刺を持たない生活へのカウントダウンが始まったわけである。ほぼ二年の猶予はあるが、早めに第二の人生のグランドデザインをする必要があると思った。

当初は似た分野での再就職も考えた。しかし、その会社を退職する時にまた同じ状態に陥り悩むことが目に見えていた。このサイクルに捕えられたくはないかった。おまけに、会社で担当していた医農薬の技術開発についてはもう十分やったとの達成感があった。そこで会社のキャリアとは無関係のことをする決心をした。最初は趣味を極めようかと考えた。四十歳の頃からご近所の仲間と楽しんでいる野菜栽培である。農作業は健康的で世話をするほど作物の出来が良くなるという面白みもあり良い選択に思えた。しかし生活の中心に据えることはためらいがあつた。好奇心が囁くのである。新しいことをやらないかと。

そんなわけで最終的には大学へ再入学を画策するようになった。気力と体力が十分に残っている今がラストチャンスと考えたのである。六十五歳になると自動的に高齢者に仕分けされることへの反発心もあつた。まだ若いのに勝手に年寄り扱いされではかなわないと思ったわけである。当然会社の同僚や家族にはあきれられたが、実は研究してみたいテーマがあつた。

筆者は会社業務として四十を超える日々へ出向いた経験がある。農薬や防疫薬の研究開発に従事していたため、目的地の多くは農業地帯や開発途上国であつた。例えば戦争中のイランや解放前のソ連および東欧諸国の農薬製剤工場、タンザニアに立ち上げたマラリア防除用のオリセットネット工場などである。いずれも苦労はしたが多種多様な立場の人と交流をする貴重な機会となつた。いろいろの地域に対する報道の多くが見聞きした内容と異なっていたのである。折に触れてそれは何故かと考えていた。また一般市民はそのようなマス・メディア情報をどの程度信用しているのかにも興味があった。彼らが高じて大学で研究したいと思うようになっていたのである。

このようなテーマを扱う学問は社会学である。そこで高齢者でも社会学を専攻できる大学を探した。その結果、京都大学総合人間学部人間科学系で勉学可能なことを知り受験を決意した。試験準備はかなり大変であつたが、幸い入試に合格し二〇二〇年四月に三回生として学士入学を果たした。その後の学生生活は残念ながらコロナ禍のせいで当初のイメージとかなり違うものとなつた。リモート講義が中心となつたため楽しみにしていた若者との交流の機会もあまりなかつた。しかし、この原稿に取り掛かる直前に卒論の提出を済ませ卒業の目途が立つたところである。テーマは「新聞における農薬関連記事の変遷に関する内容分析」である。なお、元々研究志向であったことに加えて新たな人脈づくりも進めたいとの思いから大学院を目指した。幸い入試に合格し本年四月からは人間環境学研究科へ進む予定である。

しんでいるわけである。例えば修士終了後に社会学の知識も活かしたボランティア活動ができないかと考えていて、二〇一五年開催の大坂万博のお手伝いが出来れば楽しいであろうなと思つてもいる。

しかし、二十一世紀生まれの若者に伍していくのは結構大変ではある。昭和

生まれの中ではITリテラシーが高い方だとの自負はあるが、昨今の大学では講義中にツイッターで感想や質問をつぶやくことを求められたりもする。若者に負けるものかと気はせくが、結局は指が上手く動かず誤変換だらけになる。また、全く専門外の分野に三回生から飛び込んだハンディは意外に大きかった。一、二回生の間に習うべき社会学の基礎が欠落していたのである。追いつくのはかなり大変であった。

苦戦しながらも二年間を耐えた成果であろうか、卒業間近になつて漸く社会学というものが見えてきた気がしている。大学で社会学を専攻された方はご存じのとおり、本学問の守備範囲はかなり広い。例えば、人間論、コミュニケーション論、集団論、文化論、権力論、社会問題論などが代表的な研究分野であるが、経済学や心理学などとの境界領域もよく扱う。そのために他分野の社会科学者からは侵入科学とかモザイク科学と揶揄されることもある。おまけに比較的若い研究分野であるため、流派が乱立し哲学的な立ち位置や方法論も多種多様で定まっていない。ただ楽天的な筆者は基本的には何でも出来る学問だと解釈し気に入っている。コロナ禍での政府、マス・メディア、一般市民の言動の分析などは正に社会学の得意分野である。ワイドショーの無責任で根拠のないコメントを聞くにつけ、大学院のテーマに設定し自由に研究してみようかと考えている今日この頃である。

話は変わるが、三田市に住みついて既に三十有余年が経過した。しかし残念ながら同市への関心度は高いとは言えないし、市政に対する興味も強くはない。一方で高校を卒業後一度も生活をしていない山崎町への愛着は今だに強い。帰省時に揖保川が改修されているのを見ると環境の保全状況が心配になるし、皆

で通った山崎幼稚園の閉鎖話を聞くと悲しくなる。お弁当を温めて食べたことや狭い中庭でお神輿を担いだ時の曲のメロディーが蘇るのである。また、毎年五月の連休には大歳神社の藤の開花状況が気になるし、秋には紅葉したもみじ山を思い浮かべる。

折角社会学を専攻しているので、両市に対する思いの違いが何に起因するのかを考えてみた。まずは三田市である。同市での生活は知人や親戚のいない状態から始まった。全ての近隣住民が転入者であったため住民同士の一体感は無かったと記憶している。いずれは三田市が第2の故郷になりご近所さんとも親密になると思っていたが、そうはならなかつた。職場での人間関係が密なために居住地区での一体感を高めなくとも社会的な疎外感を感じなかつたのである。近隣の人々も同じようなサラリーマンであつたため積極的な交流の必要性を感じず、お互いが距離感を保つた付き合いに終始し、地域への愛着度が低いまま保たれてしまつたように思えるが、都市型社会の特徴であろう。それに対して山崎町には子供の頃に一緒に過ごした親戚や思い出を共有した知人がいる。また、その頃の記憶を社会的に保存している場所や建物がある。すなわち、山崎町はかつて場を共有し共属意識を持つ人のいる集団なのである。これは社会学にいうコミュニティであり意図的な加入や離脱の出来るものでは無い。それに対し、転居先は会社と同様にうわべの利害関係による結びつきが強く自由な離脱の可能な集団すなわちアソシエーションとしての性格が強いのであろう。結論として、どこで何年暮らしたとしても故郷は故郷なのである。町外へ転出された山崎町民はどの程度おられるのであろうか。山崎町民ではないが故郷としての意識があるという意味で、町外への転出者は社会学にいうストレンジャーに該当すると考えられる。ストレンジャーは集団内部の人と違う集団にも属しているため視点が異なり、その結果内部に対しても変革などを起こしやすい性質を持つとされている。したがつて、我ら転出者をうまく活用頂ければ山崎町の良き応援团になれるのではないかと愚考したりする。

帰省をした時に町内を散歩することが多々ある。昔と変わらぬ風景に安心することもあり、整備された地区を眺めて町の将来に思いを馳せる場面もある。また、小さな子供が遊んでいる姿を見るのは嬉しい。そして山崎町がいつまでも活力を持った故郷であって欲しいと思わずにはいられない自分に気付く。

フレー、フレー、山崎！



## 略歴

1955年12月12日山崎町山崎（富士ノ町）に生まれ、山崎町立幼稚園、小学校、中学校を経て県立山崎高校で学ぶ。その後京都大学工学部を経て京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻へ進学する。1981年4月に現住友化学に入社し、主に医薬・農業関係の技術・研究、企画・管理畠を歩み、マラリア防除のためのオリセットネットのタンザニア現地工場の立上げ責任者も担当する。1992年に京都大学工学博士の学位を取得。1996年にControlled Release SocietyよりOutstanding Paper in the Agrochemical/Veterinary Field Awardを受賞。

2010年健康農業関連事業研究所長、2011年理事、2014年執行役員、2017年常務執行役員。2019年の役員退任を契機に京都大学総合人間学部への学士入学を志し2020年4月に同学部人間科学系の3回生になる。2022年1月現在は卒論発表会に向けての準備中。2022年4月からは同大学大学院人間環境学研究科に進学の予定。専門分野は社会学であり、コロナ禍の学生生活のやりづらさに悩みながらも第二のモラトリアムをエンジョイ中。趣味は会社時代の専門知識を活かした野菜作り、ギター演奏および上方落語鑑賞。

# カムバック ひょうご人

## 「五十年ぶりの帰還

## 生涯青春！記者魂！

## ふるさと愛はボチボチと…」



堂元 光さん  
(宍粟市)

NHK時代…、  
ふるさととのつながり

を欠かしたことではなく、NHK時代も  
含め今でも毎年続けています。「井の中の蛙…、されど天蒼きを知る」と。

宍粟市山崎町で生まれ育ち、NHK政治部記者、政治部長、報道局長、大阪放送局長等を経て、平成26年から6年間、生え抜き職員トップの役職、副会長を務めた堂元さん。故郷を離れた後も、いざれば宍粟に戻るという思いは変わらなかつた。一昨年2月に退任後、故郷にリターン。帰郷後は、メディアの経験を活かし、地域の発信強化に向けて、日々汗を流されています。

### 読みますね？宍粟市

宍粟市と言えば、難読自治体の西横綱（東横綱は千葉県匝瑳市）とか、電車が走っていないまちとか、自虐的な

を歩みましたが、大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送（平成26年）と紅白連続3回出場歌手・丘みどり（山崎高校出身）の誕生は生涯この上ない感激でした。宍粟市は、黒田官兵衛・初の知行地であり、最上山公園のふもとには、「黒田官兵衛飛躍の地」と「黒田熊之助ゆかりの地」の石碑も。（熊之助は、官兵衛の次男で、山崎城で生誕との記録あり）。

また、昭和59年のロサンゼルスオリンピック、柔道・細川伸二選手（一宮町出身）の金メダルも決して忘れるこ



最上山公園もみじ山

とはありません。さらに、楽天の三木谷浩史社長は、徳川四天王のひとり本多忠勝につながる山崎藩藩主の子孫で、

## Uターンへの思い

ドキュメンタリー番組「ファミリーヒストリー」に出演（平成30年）。そして、日本を代表する女優吉永小百合は、昭和47年、母親が幼少期に育った山崎町の薬泉寺を訪問。街中が大騒ぎになつたと伝わっており、その時の写真は今も大切に保存されています。吉永家のお手伝いさんは、実は山崎町の女性！、かつての人気番組「私の秘密」（昭和39年）にも出演し、貴重な写真も残されています。

「生まれ故郷の美しい山河を見ながら人生を終えたい」と思い続けていました。山崎高校卒業後、東京見物でもと物見遊山で受験した早稲田大学にまさかの合格、そしてNHK入局と展開するも、ふるさと回帰への思いは変わらず！時を経て平成26年、NHK副会長の就任が決まった経営委員会で、「役割を終えたら、一日も早く故郷に帰りたい」と、失笑を買うような就任挨拶。正直に本音を言つたまで…有言

実行、迷いなし！東京時代も大阪時代

も、神戸新聞を定期購読、西播版の記事が故郷への思いを繋いでくれたのか

もかもしれません。50年ぶりの帰還を果たし、何かひとつでもいい、恩返しができればと…。記者魂が蘇れば、スクープ性ある新発見も…。豊富な地域資源の活用展開策も…。



赤西渓谷

## 現在の活動

単身Uターン生活も2年。少し覚えた手料理、畑仕事、ゴルフ：健康的

な面も。宍粟・山崎と姫路の往来が基本パターんで、地域の有り様や情報発信の在り方などなど、口は悪いが温かい播磨人との話はつきません。地域のアドバイザーが主な活動ですが、たまには、大都会の空気に触れようと、神戸や大阪、そして東京に足を運ぶことも…。ネット社会と言えども直接対話は欠かせません。人と人のつながりや交流は大事。コンテンツ展開戦国時代の真っ只中、地域の情報発信は如何にあるべきか追求していきたいです。

## これから夢

まず、自宅に「軍師官兵衛ギャラリー」と「丘みどりの部屋」を開設準備中。ただし、完成未定・非公開（笑）。人口減少は避けて通れない地域の課題ですが、神姫バスは昔も今も地域の足です。「楽しそう！ 美味しそう！ 恋しそう！」：神姫バスの森林王国ツアーガ実現する日が待ち遠しい。そして、コロナ禍で見送った兵庫県立大学での学生との対話を、新年度こそはストアトさせたいです。若者のテレビ離れ、活字離れが進む中、「若者は映像文化から逃げているわけではない」と確信しています。メディア経験しかない私の話に耳を傾けてくれるだろうか？



神戸新聞との懇談会

# 短歌

山崎歌人協会

## 短歌にふれてみませんか

池田春美

万葉集は昔から先人が残してくれた文化の筆頭を百人一首にして「やまとことば」に詠まれた歌です。

平安時代以後、和歌と呼ばれた時代を過ぎて明治以後は、直接的に短歌と呼ばれるようになりました。沢山の名歌に触れ感動も覚えました。

例えば佐佐木信綱のゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

未だ歌は衰えることなく教材など広く使われています。

正岡子規、与謝野晶子、伊藤左千夫、牧水、啄木、空穂、茂吉、挙げればきりがなくなります。それの人達の流れを汲みつつ現代に、榮々と続いているのがこの短歌です。

今では皇室と国民が同じ題で歌を詠み、歌会始めなど行われている時代です。上皇后美智子様の歌集も店頭で求めることも出来ます。歌集の一首に身近な草花を

されば彼岸花咲ける間の道をゆく行き極

の言葉にはっと胸を突かれました。

また河野裕子の死の直前に詠んだ手をのべてあなたとあなたに触れたきに息が足りないこの世の息が六十四歳で逝く身と、家族への想いを詠った悼ましさが心に残る歌です。

三十一文字の中に小説に匹敵する歌です。俵万智は若者好みになつた歌集に

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

「嫁さんになれよ」だなんてカン

チューハイ二本で言つてしまつていいの

また今年の新刊書に

制服は未来のサイズ入学のどの子

もどこの子も未来着てる

少し大きめの服を、未来と詠んだ発想を上手だなとおもいませんか。

誰もが知っている百人一首も短歌です。小学校や中学校で教わった人もいるでしょう。お正月に家族みんなで楽しんだ想い出もありますね。今年はあなたも短歌を詠んでみたいという年にしませんか。指を折つて五七五七七の言葉で、先ず一首作つてみてください。

日本語のすばらしさに、きっと出会えます。

新春のひかりあまねき葉ぼたんに青

虫うつとり日向ぼっこする  
「正月のお餅送ったよ」携帯をひらきて母亡き娘の声を聴く

栗山 節子

境内にとんどの煙あがりたり足引き  
ずりて近くて遠し  
プランターの狭きに根をはり初生り  
のひめたちばなの実稚し

門積 健三

安東はつ子  
元日にブルブルブルとバイク音ゴト  
ンと響くポストへ向かう  
悪気なく発した言葉は許されず改め  
て知る言葉の怖さ

前川 有里

よき事のあれよと願ひ待つ初日生まれたてなる日が昇りくる  
日本との時差は九時間ロンドンは今新年と友よりのメール

新井 慶子

難波なる住吉神社の種質社「一粒万倍日」の旗なびく  
茎太く肉厚の葉のほろ苦き「姫路若菜」の復活嬉し

衣川有賀子

煙打ちて腰の痛みに佇ちつくす蜻蛉はわれを案山子と見るや

野菜たち師走の空気に葉を広げ根っこは土に冬支度する

三木 富子

ふかふかに土肥したるちちははと思えば放棄のできぬ開墾畑

ひたすらに寒さ耐へる裸木を打たずに行きよ風のたてがみ

座布団三つ縁に並べて寝ころべば小

春のひかり病軀をつつむ

栗山 節子

久しづぶりにランチしようと誘はるも  
雑用多ありつひぞ果せぬ

事故もなく十万キロを走りたる愛車を娘は撫で引き渡したり  
佐々木タエ子

点滴を受く間も年の瀬迫りをり妻をひとり待つ休診の椅子

「御日待」といふ正月神事を執り終えて直会の酒腹に染みわたる

## 宍粟市やまさき文化大学

### 短歌部詠草

手と足がふと触れ合いし掘りごたつ  
胸の痛みを知り初めし頃

イチジクは花の無き果と書かるるも  
花は花とし実は実と熟るる

大部 正勝

昨夜また二メートルの柵を乗り越え  
て芋の葉を食む招かざる鹿

両の手に荷物を抱えるわが顔に蜘蛛  
糸はりつく夕暮れの軒

福元千代子

十六夜の岸のよどみに身をおきしふ  
たりの影と月影たゆたう

ホームコタツは主を亡くしテーブル  
とかわりてのちは物置とならん

中谷 賢二

来し方にきびしさなきゆえ流されて  
ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか  
らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

道の辺の長けし虎杖に曲者と倒せば  
わが庭にしんと冷たき朝がきて石蕗

### 一葉会詠草

胸すく少女でありし  
茹で卵冷えゆくな中に産みたての卵

の温み覚えきのこの掌

植木 洋子

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

わが庭にしんと冷たき朝がきて石蕗

黄花すがれそめけり  
秋草をひく手元よりたちのぼりし遅  
れ蚊ひとつ此の身はなれず

眼に追へば逃げてまたくる夜の蛾に  
もてあそべれるき飛蚊症なり  
瀬戸はるか水平線に顯れて大き火  
の玉お日様となる

栗山 節子

山崎 武野寿々代

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

再会の約束をして別れたる友は逝き  
たり二十日足らずに  
温かき彩に染まりし山なみに向かひ  
て歩く夫と二人で

亡父と歩みし道をいま一人歩けば父  
の面影浮かぶ  
秋だよりコスモスの花ゆらゆらと微  
笑みかけて我呼び寄せる

山崎 智絵

武野寿々代

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

胸すく少女でありし  
茹で卵冷えゆくな中に産みたての卵

の温み覚えきのこの掌

植木 洋子

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

胸すく少女でありし  
茹で卵冷えゆくな中に産みたての卵

の温み覚えきのこの掌

植木 洋子

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 満子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

黄花すがれそめけり  
秋草をひく手元よりたちのぼりし遅  
れ蚊ひとつ此の身はなれず

眼に追へば逃げてまたくる夜の蛾に  
もてあそべれるき飛蚊症なり  
瀬戸はるか水平線に顯れて大き火  
の玉お日様となる

栗山 節子

山崎 武野寿々代

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 满子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

亡父と歩みし道をいま一人歩けば父  
の面影浮かぶ  
秋だよりコスモスの花ゆらゆらと微  
笑みかけて我呼び寄せる

城内 悅子

山崎 武野寿々代

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 满子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

亡父と歩みし道をいま一人歩けば父  
の面影浮かぶ  
秋だよりコスモスの花ゆらゆらと微  
笑みかけて我呼び寄せる

城内 悅子

山崎 武野寿々代

リモコンで操られ飛ぶヘリコプター

稻田の上に農薬を播く

認知の夫に説得よりも優しさでと泣

き笑いつつ言葉を選ぶ

清水 晴美

砥峰の高原に風吹きぬけて身も心も

リフレッシュしたり

満天の星を見上ぐる秋の夜むずかし

きことは暫し忘れむ

武野寿々代

ホームコタツは主を亡くしテーブル

とかわりてのちは物置とならん

来し方にきびしさなきゆえ流されて

ただただ流されて命終せまる

夕暮れの寒さと空腹耐えかねて炬燵

森元 满子

わわれの日もかくひとすじの煙かな焼  
き場を出て高煙突見ゆ

朝な朝な門担ぎに張る蜘蛛の巣にか

らめ捕られてひと日はじまる

門積 健三

虹ひくく海にかかりし冬どなり波は

磐根に寄せて碎ける

しらみゆく空に光れる刃のごとき残

人の月よウイルスを断て

ある時も意味なき時も

俳

句

山崎俳句協会

新宮町へ秋の吟行  
十一月八日

青嶺句会 杉山 美保子

青嶺句会恒例の秋の吟行。今年は  
新宮町へ出かけた。

初めに新宮宮内遺跡へ。ここは、  
国指定の史跡で堅穴住居が復元され  
ている。西播磨を代表する弥生時代  
集落として、史跡公園整備が進めら  
れています。

・楽しみに待った吟行秋ぐもり

・豊穴の弥生の空も秋ありし

・大花野弥生の遺跡に笑い声

・彼岸花弥生の森によく似合ふ

美保子

久子

チエノ

とみ子



・秋色に染まり行く木々寝釈迦山

幸子

東山公園に到着。数羽の家鴨の出

良子

迎えを受ける。散策しながら句材を  
探し記念写真に納まる。

若松 幸子

まだ青き紅葉も良くて紅葉山

緑山

・色の良き踏むをためらふ草紅葉

ゆき

談笑しながら和やかなうちに句会  
を終える。

それぞれに満足し今日の一日に感  
謝しつつ帰路に着いた。

・綿虫やまぼろしめきてはたと消ゆ

・母校への茶の花垣の道が好き

門積  
緑山

・こころこと輝き踊る芋の露

・赴任地へ膨らむ夢や春の夜

杉山美保子

・今朝の秋湖面にさざ波走りけり

鳥羽チエノ

・境内の筈日新し霜光る

鳥羽チエノ

・遠初音閉ざし心も前向きに

田中 良子

・新米の届きし電話里言葉

島本 久子

・初恋を思い出させる春の夜

西田 宣子

・冬の宿露天風呂から見る夕陽

中尾 富子

・車窓から緑とび込む新樹かな

ダ一

・身の丈に生き十葉の白十字

西田 宣子

・バラの芽に音なく雨のささやきぬ

三浦 ゆき

当日欠席の方の詠草  
標本のごと秋蝶の石の上

駆雲

・人住まぬ里に栄えて曼珠沙華  
流れ星遠き家族の無事祈る

三浦 ゆき

・満月にかかる月食天体ショード

伊助

・ここが好き風にゆらゆら秋桜

原田 駆雲

青嶺句会詠草

故 和田疎人先生秀句

・寒行の僧らの黒衣風はらみ  
煤逃げや文庫一冊ポケットに

原田 駆雲

・吾子発ちし機の尾燈消え銀河濃し  
献額の我が句も古りぬ秋燈

原田 駆雲

・寒行の僧らの黒衣風はらみ  
煤逃げや文庫一冊ポケットに

原田 駆雲

山脈句会詠草

・ステンレス鍬に翅置く秋茜

京屋 伊助

・山越えの汽笛のとどく良夜かな

原田 駆雲

・滝涸れて御座す磨崖のぬれ仏

原田 駆雲

・行く年や煩惱叩く鐘亘る

原田 駆雲

・渡るなり子供がべこり冬ぬくし

原田 駆雲

・恙無く過せた日々や年の暮れ

原田 駆雲

・麦笛を競いし亡兄を偲ぶ夕

原田 駆雲

・大夕立去りて播磨の山煙る

原田 駆雲

・子の履かす旅路のわらぢ寒の葬

原田 駆雲

・年の瀬の重き一枚カレンダー

原田 駆雲

・身の丈に生き十葉の白十字

原田 駆雲

・バラの芽に音なく雨のささやきぬ

原田 駆雲



## 山崎町金谷の山城

かしわらじょう

## 柏原城について

山崎郷土研究会

片山昭悟

小さな郭を設けていることです。

金谷の言い伝えによると、新宮町の奥小屋と牧には、三つの峠（北から大木峠、中の峠、金木峠）があり、山道があることから当時東西方向の交通の要衝であったものと推定されます。

柏原城は、宍粟市山崎町金谷の標高四六五メートルの国見山西方、標高四九〇メートルの金谷石ヶ谷に位置する山城です。

兵庫県立国見の森公園のハイキングコースの途中には比地の滝や天台宗の山岳寺院の長谷山遊鶴寺があります。

『播磨鑑』によると、柏原城主は早瀬帶刀正義とされています。

城跡は譲尾の尾根上にあり、柴尾氏が譲つたことから尾根の名が付いたと伝わっています。

天正八年（一五六〇）に羽柴（豊

臣）秀吉が長水城を攻めた時に遊鶴寺とともに落城したと伝えられ、  
郭や堀切や土塁が残っています。

柏原城の特徴は、自然の地形を利用して東西に主郭を、四方に小さな郭を、西に堀切を、南には通路への



柏原城（長水城遠望）

よると、香山城を落とした秀吉は、

続いて金谷（山崎町）の柏原城を攻めました。当時は宇野家臣の小林・春名などの諸将が守っていたとのことです。

柏原城は北の長水城がよく見える位置にあります。東は城下や川戸が遠望でき、宇原の禅寺山には鐘掛松があつたことから当時東西に通信や連絡のような見張りができるいたと考えられ山崎にとって重要な城郭でした。

柏原城は今に伝わる貴重な文化財遺産です。

『播磨鑑』によると、柏原城は今に伝わる貴重な文化財遺産です。

さらに『播磨新宮町史』第五巻に

また新宮町牧の『金照寺縁起』によると、天正八年（一五六〇）の長水城攻めに際し、羽柴秀吉によって長谷山遊鶴寺（草尾山幽閑寺とも）が焼き討ちされ、近辺の高山に横堀を設けて一夜の内に城を築いたとされています。

## 発足七十周年 の新潮会

新潮会 会長  
宇田詔三

新潮会は、昭和二十七年六月に発足して今年は七十周年（昭和、平成、令和）三時代の歴史ある記念の年です。

この会の設立目的としましては、志を同じくし、その時代感覚を共有する者が相集い、会員相互の交流を通じて、自ら品性を高め誠実にして

良識のある市民として真摯に切磋琢磨することです。そのためには政治・経済・教育・芸術分野の公正・公平な立場で啓発活動を行い、文化的な発展に少しでも貢献できる

宍粟市の発展に少しでも貢献できるように日々実践しております。

月一回の定例会を開き、テーマを決めて講師を招き、有意義な勉強をして、その知識や感動を市民の皆様に伝えしたり、情報誌の発行などでお知らせをしております。

一口で七十年と云いますが、諸先輩方の並々ならぬご努力とご苦労のおかげで、また地域の皆様の一方ならぬ応援により長く継続しております。

山崎文化協会の会員様にも感謝申し上げますと共に、新潮会のこれらの活動にご理解、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

# 回想からの展望

穴粟市茶華道協会

深川幸子

幼少期より茶華道が身近にありましたが、三猿状態で気持ちは別方向へ。読書や夕刻迄の外遊び、兄を相手の本将棋を懐かしく思い出します。岡田山での学生生活を終え、祖母や両親より稽古を受け、茶道の所作や華道は、本人の感性や心模様が如実に現れ伝わると教わりました。銀行や行政の秘書時代にも役立つ事が多々あったと懐古する現在です。

で出ていますが、若者の思考は斬新で逆に学ぶ事もあります。

ども伝統文化わくわく体験教室」を実施。他市町の小学校へ「茶道」のお手伝いをさせて頂いており、礼節等を学ぶ機会に出来ればと願っています。

日常を離れた茶会や華展には格別の思いがあり、古くからの習わしを

守り、改めて人との絆を感じる時で  
もあります。多様な優れた文化も変  
わる事なく脈々と今に息づき伝統的  
文化の持つ魅力を発揮する所です。

先達の偉業に敬意を払い、指標に沿って学び歩む。常に平常心で向かいたいと願う毎日です。

茶華道は奥が深く、未だ道半ばで至りませんが、伝統文化の継承を後世に繋げるパイプ役としての一助を

穴粟謡曲同好会  
春名芳子

飽食の時代ですが、秘書研修時に心に響いた故事「倉廩実ちて礼節を知り、衣食足りて榮辱を知る」が始まります。

若い方達にも伝統文化の良さが興味深いものとして響く様に励んで参りたいと思いを新たにしています。

写真や本で能や仕舞の扇を見る限り、その美しさに魅せられて見入ってしまいます。

それが自分の味となり私の分身のようにはじかられ愛おしく思えます。また、小さく折りたためて嵩張らず便利な実用扇子は、瀟洒な雰囲気があり繊細な細工が美しく人気のようです。夏は少々身体を動かすと汗が噴き出る暑がりの私は、気に入つた絵柄の扇子を愛用し、涼風を得るのに使っています。

昨日は新型コロナウイルスの影響で稽古が中止となり、寂しく感じていました。必ずマスク着用の上ですが、稽古が久しぶりに再開できた時には、穏やかな普段通りの暮らしのありがたさ、当たり前の日常の尊さが身にしみました。コロナ感染防止対策をしながらも、丁寧にご指導下さる先生、そして和やかな一時を過ごせる仲間に支えられ、お陰で、扇を手に足袋をはき、稽古を続けられており感謝の日々です。

能の事は何も解らない自分が、  
機会に恵まれて鑑賞できた時は、演  
じられる方々が、華麗な扇を開いた  
り閉じたりして演能される舞いの美  
しさに、夢か現かの世界に引き込まれ  
れるようで古典の世界の雰囲気に浸

花や、老松、竹等の樹木、水景、山景、雲景等々本当に多彩な絵柄がさまざまに描かれていて見飽きません。

昨年は新型コロナウイルスの影響で稽古が中止となり、寂しく感じていました。必ずマスク着用の上です



## 多様なおもしろさ を味わう

宍粟市少年少女合唱団

塚 田 英 夫

わたしの楽しみの一つにNHKの「日曜美術館」という番組があります。そこでは、歴史的な名画から今話題のアートまでが紹介され、それらの奥深さにいつの間にか魅了され、あっという間に一時間が過ぎてしまいます。

わたしが幼い頃、山崎には書道塾がたくさんありました。何がきっかけだったのか忘れましたが、気がつくとわたしも習いに行っていました。おかげさまで書道展などには何度も出品もさせていただきました。しかし、同じ事を何度も繰り返さなければ上達しない書道の稽古にだんだん退屈するようになっていました。ある時、先生から別室に呼ばれました。行ってみると、障子紙のような大きな紙とハタキのような大きな筆が用意してあります。すると、先生が「自分の好きな漢字を一つ好きなように書いてごらん」とおっしゃ

いました。どうすればよいかわかりませんでしたが、思い切って筆を動かしました。それまでは、お手本を見ただ忠実に書いていくことばかりでしたが、自分で気の向くまま筆を動かし、まるで絵のように表現していくことに、これまでに味わったことのないような快感を覚えました。

できあがった字はわたしの体にガツンと響きました。今ではすっかり定着している書のパフォーマンスの一つの形です。

現代では様式や規則にとらわれない多様な表現が溢れています。伝統的なことを踏襲したり基礎的な稽古を積み上げたりすることは大切ですが、それをもとに派生した作品やパフォーマンスは実におもしろいものです。いろいろな考え方や思いは文化の中につけてこそ素直に反映され開花します。地元で行われているいろいろな文化的なイベントでも工夫を凝らしたいいろいろな表現に出会うことがあります。身近な文化に多様な魅力を見つけることも文化の楽しみ方の一つだとわたしは思います。

見てただ忠実に書いていくことばかりでしたが、自分で気の向くまま筆を見ていくことに、これまでに味わったことのないような快感を覚えました。できあがった字はわたしの体にガツンと響きました。今ではすっかり定着している書のパフォーマンスの一つの形です。

山崎囲碁同好会は毎年六月の第一日曜日に「さつき碁会」を、十一月三日に「菊花碁会」を主催しています。私もこの碁会のお世話を四十年近くさせていただいておりますが、新型コロナウイルスの関係で令和二年度と三年度の「さつき碁会」は止む無く中止せざるを得ませんでした。しかし、十月になりコロナ禍も下火となり、感染防止対策を講じて「菊花碁会」をやろうと決めて準備を進めました。当日、何名ぐらい参加して下さるか不安な気持ちで待っていたところ、近隣市町からの参加者を含め四十数名の参加者で大盛会となりました。

囲碁は、強ければ強くてよし。へばなればへばにてもまたよし。人生をより豊かにより楽しくしてくれるものです。

若い人はこの奥の深い囲碁というゲームに挑戦して勝負感というものと同時に自己の物事に対応したいという知性をも養つて欲しいと思います。

高齢者にとっても碁を打つということは、世間とのお付き合いができるということですから認知症の予防にもなるわけですし、最高の娯楽だと思います。

\*段級位は自己申告であり、今の自分の実力が確認できること。  
\*一局目で負けても「改元」と言うルールがあり優勝のチャンスも窺える。

## 国 墓 大 会

山崎囲碁同好会

前 田 茂 雄

\*対戦相手は、ランダムに決まるのでほとんどが初手合となり、そのため心持ちも新鮮になる。

\*お互いの親睦が深まり、棋力の向上に繋がる。

このように楽しい碁会ではありますぐ、会場を見渡せば男性の高齢者ばかりで、女性や若者の姿が見当たりません。このような大会もいつまで続けられるかと杞憂の気持ちも抑さえ切れません。

# 私の人生 詩吟と演歌

山崎詩舞道連盟  
紫洲流日本明吟会

山根富夫

昭和三十年、山崎高校卒業後山崎  
當林署、引原ダム、生命保険会社、  
三十年勤め、内単身赴任八年、大変

な毎日だったが定年。平成十年山崎  
老人大学に入学し、クラブ活動の歌  
謡部に入部、現在四十名の部員と  
ともに月二回の歌の練習。また講師  
として指導もしています。

私は考える。幸せとは健康、愛情、  
お金で、特に健康であるためにはス  
トレスをためないことで解消法はカ  
ラオケ、演歌、詩吟そして買い物、  
運動することです。

七十歳になつた時、友達に歌もい  
いが紫洲流詩吟をやってみないかと  
誘われました。そこで高校時代の啓  
明寮での寮生活で同期の猶原先生を  
思い出し、先生のお弟子さんに入門  
をいたしました。

平成二十年七月二十四日、昇段テ  
ストで課題曲は「九段の桜」で無級  
から二つ飛んで優勝と初段のトロフィ

をいただき非常に嬉しかったことを  
思い出します。

昇段するにしたがつて難しく奥が  
深くなり、詩の理解や練習の連続で  
すがやりがいがあります。

平成二十九年度兵庫県本部吟詠大  
会で優勝し、第二十九回全国選抜競  
技大会（KKRホテル大阪）に出場  
した際、全国から集うスケールの大  
きさ等、すべてに感銘を受け一生の  
宝物になりました。

令和元年、やつと「紫」になり皆  
さんの仲間入りができました。現在  
八十五歳になられる徳久の梅内紫洸  
先生に月二回のレッスンを受けてい  
ます。

昭和四十八年七月、従来より当流  
との御交誼に依り高槻市にある根本  
山宝塔院神峯山寺の住職市川孝道師  
の格別の御配慮を戴き当地を操作し、  
紫洲碑建立が計画されました。財団  
法人日本吟剣詩舞振興会会長笛川良



紫洲碑

一先生に碑面の揮毫を戴き各地の故  
宗家の諸先生方の御芳志辱建立とな  
りました。

平成三十年九月三十日、紫洲流日

本明吟会の創立八十五周年記念祝賀  
大会がありました。今後吟を通し  
て多くを習い、品格、人間形成の向  
上に努めてまいります。

五十年という長い歴史のある山崎  
町民合唱をなくしてしまった訳にはま  
りません。

どうか歌が好きな若者の入会を希  
望します。すばらしい指揮者、栗山  
祐子先生と伴奏の長井美江先生が教  
えて下さい。

多くの方の入会を希望します。

連絡先 中野剛志

電話 ○九〇一一〇二八一八九八八

## 山崎町民合唱 からのお願い!!

山崎町民合唱

木下豊子



新型コロナの感染拡大で、私達町  
民合唱も、歌うと飛沫が飛んで感染  
しやすいと言う理由で、約二年間と  
いう長い間、練習を休むという事態  
になりました。

高齢者がほとんどの私達にとって  
二年という月日はとても大切な時間  
でした。

晴れて令和四年三月に、しそうの  
森合唱祭がマスク着用で開催され  
ことになりましたが、多くの会員が  
やる気を失い、退会を申し出ています。  
高齢化にコロナが拍車をかけて

## 宍粟美術協会の 今後の活動に向けて

宍粟美術協会 会長

伊 藤 一 郎

令和二年度に宍粟美術協会と山崎  
美術協会が統合し、新しく宍粟美術  
協会が発足しました。旧宍粟美術協  
会発足からすでに半世紀近くが過ぎ、  
その重みを感じています。この歴史  
ある活動を次の世代に引き継いでい  
かねばなりません。

美術協会は、宍粟市の文化向上に  
むけて初心者からプロまでも参加す  
る幅の広い団体です。皆様の温かい  
ご支援をお願い申し上げます。

今後の活動予定については次のよ  
うに計画していますが、コロナの感  
染状況の推移を見ながらの開催にな  
りますので、今のところ、この場で  
は具体的にはお知らせできませんが、  
コロナの感染状況が落ち着き次第、  
会員みんなで協力しあって活動して  
いきたいと思っています。

### 【活動予定】

- ☆ 宍粟美術協会展の開催
- ☆ 宍粟美術協会巡回展の開催
- ☆ 宍粟美術協会各部展の開催
- ☆ 美術協会のみならず、いろいろな  
団体皆さんにとって、一日も早く

コロナが終息し、以前のような活動  
ができる日々を迎えるよう願つ  
てやみません。

## この頃、思うこと

昭 和 会

山 下 直 昭

高齢者となつて既に久しい。紙面  
は甚だ少ないが、日頃思つてゐるこ  
とを記してみたい。長く生きること  
は、これまで知らなかつた事柄に触  
れることができ、まだ知るべき世界  
の多さ、深さを思い知られ、わが  
人生の最後の日までに果たすべき事  
柄の多さを痛感する。

「生者必滅・会者定離」の言葉は、  
平家物語を読むまでもなく太古の昔  
から自明の理とされている。ところ  
が、往々にして、人は幼年・青年時  
にはこのことを思はず、日々目前の  
ことに思い煩い、就労に心を碎き、  
死ぬ間際になつてやっと気付くか、  
直前になつても気づかずに生を終え  
る人もいるようである。

まず、「人生」について。我々が  
生きてきた二十世紀後半から今に至  
る時代は、何と幸せな時代であつた  
ことか。この時代に生きることがで  
きたことに感謝したい。総じて、日  
本にも満たない、昨日の出来事であ  
る。これをどうして昔のこととして  
忘れることができようか。現在の日  
本人は、日々、衷心よりこれを回顧  
しているであろうか。

あの時、当時の世界の情勢からみ  
ても一歩間違えば日本の国はなくなつ  
ていたのだ。にも拘らず現在の日本  
はこれからもこの環境を維持していく  
に満ちた時代を見聞きしてきた  
からこそその感想である。どうか、こ  
れらをこの環境を維持していく  
ために期待したい。

次に、「歴史」について。日本は  
太古の昔からユーラシア大陸の東端  
にあり、大陸に接せず、比較的幸運  
な時代を経てきた。今、こうして過  
去及び世界を眺めるにヨーロッパ諸  
国、他のアジア諸国と比べても、日  
本の先人の優秀さと今に至る努力と  
英知に対しても、深甚の敬意と感謝を  
表したい。

振り返って、昭和初期の国策は、  
多大の努力がなされたが、同時に不  
運な諸事情もあり、世界を見る目に  
曇りと誤りがあつた。又、近隣諸国  
と友好関係を図りえなかつたことは  
日本の未来に多くの反省と教訓を与  
えるものであつた。

今年は太平洋戦争開戦八十年を数  
える年であった。太平洋戦争（大東  
亜戦争）は、まさに日本の有史以来  
の国難であった。結果として、数百  
万の戦死者、累々たる屍、数多くの  
慟哭を生む悲劇があった。これは單  
なる過去の事実ではない。ほんの百

年にも満たない、昨日の出来事であ  
る。これをどうして昔のこととして  
忘れることができようか。現在の日  
本人は、日々、衷心よりこれを回顧  
しているであろうか。

多くの資料、著名人の著作から明ら  
かであるが、当時の日本はむしろ貶  
められたのであり、戦後のアジアの  
植民地諸国の独立、復興は日本の功  
績であった。戦後、日本はアメリカ  
の占領政策・W.G.I.P.から逃れられ  
ずに、今に至つた。現在も尚、この  
影響を受けている。今の世界と日本  
の置かれたアジアを直視し、誇りあ  
る日本の發展を願うばかりである。

## 和太鼓の魅力

宍粟和太鼓アーツ倶楽部

高野和子

私は和太鼓アーツ倶楽部の「喜羽」  
というグループで和太鼓を二十年以上  
続けています。

飽き性で習いごとを続けるのが苦  
手だった私が、出産の為に活動を休  
止、復帰しながらも、こうして和太  
鼓を続けてるのはそれだけ和太鼓  
に魅力があるからだと思います。こ  
れを機に和太鼓の魅力を紹介し、皆  
さんに親しみを感じていただけたら  
と思います。

やはり最大の魅力は音（響き）で  
す。和太鼓に音階やハーモニーはあ  
りませんが、鼓動が耳から全身にめ  
ぐる感覚はとても心地良く、体の中  
に染みわたります。また、「ドン」  
という力強い音だけでなく太鼓を叩  
く場所や種類によって様々な音の違  
いを楽しむことができます。

次に和太鼓を叩くと、身体に良い  
ことがあります。一見、腕だけを使っ  
ているように思えますが、実は和太

鼓を力強く叩くためには肩、背中、  
お腹、足腰にも力が入り全身運動に  
なります。思いきり、太鼓を叩くこ  
とでストレス解消になり、複雑なリ  
ズムを覚えることで脳トレにもなり  
ます。健康な身体づくりにすぐれて  
いると思います。

また、和太鼓は気軽に伝統文化に  
触ることができます。和楽器の中  
でも一番身近な楽器であり、打てば  
響くという通り、老若男女誰にでも  
鳴らすことができます。

そして和太鼓には奥深さがあります。  
ただ、リズムを叩くのではなく  
曲のイメージを表現するように叩く  
ためには、音の出し方や振り、見せ  
方を追求していきます。二十年叩き  
続けていても、満足できる演奏にな  
るまで、指導していただきたり、自  
分で練習したりと時間はかかり難し  
いところもありますが、そこが面白  
くもあります。

コロナ禍において一年前から、和  
太鼓の環境も変わりましたが、この  
山崎の地の和太鼓活動が絶えること  
なく、和太鼓の響きで宍粟を活気づ  
けられるように、メンバー一同これ  
からも根気強く活動していくとい  
うことです。

思っています。

## コロナ禍の中で

山崎日本舞踊の会

岸本幸子こと  
坂東寿賀幸

新型コロナウイルス感染症が国内  
で流行し、テレビでも「お家にいま  
しょう」と報道する中で、「うつ  
たらどうしよう」と死を身近に意識  
し、家に引きこもる日が続きました。

不安ばかりがふつぶつと沸き上がり、  
お稽古のことを考える余裕もなく、  
たくさん溜まつたアルバムの整理や、  
マスク作りをしながら過ごす日々で  
した。

やっと緊急事態宣言が解除され、  
市中感染も少くなり、二回目のワ  
クチン接種も終わってお稽古に行け  
る体制になったので、お師匠さんと  
連絡を取り、お稽古に行くことがで  
きました。

初日はご挨拶で始まり、お師匠さ  
んと一緒に稽古ができることがう  
れしくて楽しくて、あつという間に  
終わりました。が、気持ちとは裏腹  
に、さあ家でお稽古をしようとして  
も、二年間も怠けてしまっていたの

で、お師匠さんのように体が動くは  
ずありません。

「一日踊らないと自分にわかり、  
二日踊らないと相手にわかり、三日  
踊らないとみんなにわかる」と聞い  
たことがあります。

名取の名に恥じぬよう、今は踊り  
のできる体づくりをしなければと日々  
お稽古に励んでいます。若い時のよ  
うにすぐには以前のように戻らない  
かも知れないけれど、初心に立ち返  
り、今は自分のできる範囲で楽しく  
精進してまいりたいと思う今日この  
頃です。



## 尺八とお琴

山崎邦楽の会  
琴泉菖蒲会・司友会  
西山真菜

うな曲にもチャレンジしていきたい  
です。



## 一年半ぶりの定期演奏会

宍粟市吹奏楽団副団長  
下里崇洋

かった」「素晴らしい」という言葉を頂くにつれ、音楽の持つエネルギーを噛みしめている。

また、病気になつて健康の有難さを知ると言うが、まさしく我々も、音楽を演奏する、楽器を奏でお客様に聴いて頂けるということが、決して当たり前のことではない、とても有難いことなのだということをつくづく実感した。

今まで、変異コロナウイルスによる第六波も始まっている。感染再拡大は避けられないだろう。それでもまた、普段の生活に戻れた時のために、日々の研鑽は積んでおきたい。

いつの日か、聴きに来て下さる人々の心に音楽を響かせるために。

私が今頑張っていることは、お琴と尺八です。お琴は小学五年生から始めました。家の練習は良く忘れているけれど発表会の前はしっかりと練習しています。

途中から先生の勧めもあって尺八を始めましたが、初めは楽譜の読み方や、指の使い方、息の入れ方など全くわからずには苦労しました。

少しづつですが、練習するうちに音は何とか出せるようになりましたが、同じ音でも高い音や低い音があるのでしっかりと先生の音を聴きながら、自分が吹く時にも同じような音が出せるようになります。

新型コロナウイルスで稽古や会が少なくなっていますが、今私ができることは、家でしっかりと練習をして、いつ発表会があつても演奏できるよう練習を頑張っています。

四月からは中学三年生になるので、みんなの先頭に立つて演奏できるよう

幸いにも、私たち宍粟市吹奏楽団は昨年十一月、比較的に感染者数が落ち着いた中、一年半ぶりに定期演奏会を行うことが出来た。聴きに来て下さった多くのお客様から、「よ



## 久し振りの舞台と笑顔

山崎民謡連合会

石田陽子

まだ先延ばしになるかと・・・。  
いつまで続くのか、心から笑顔が  
こぼれる楽しい舞台が出来ないもの  
か待ちにしています。



あかとんぽ文化ホールにて

## 来るべき時期に備えて

山崎手作り甲冑の会

小林由佳子

トに、と取り組んでおられます。多くの山城がある中で、特に十一か所の山城をピックアップして「西播磨山城イレブン」と命名し、ご城印の作成やガイドの養成も行われています。当地からは「長水城」と「篠の丸城」が選ばれています。西播磨地域にも手作り甲冑を制作している団体が複数あり、すでに交流しておりますので、この取り組みにも連携して西播磨を盛り上げていければと思っています。

会の設立以来、私たちは山崎にあっては春の藤まつり、秋はもみじ祭り、自主開催の本多まつりなどで、手作り甲冑の「着付け体験」や「武者行列」を行っています。それに加え、近隣する小学校運動会騎馬戦への協力などを通じて、地域の歴史や文化の継承に積極的に取り組んできました。また、他団体との交流を持ちながら市外にも活動の範囲を広げてまいりました。

来年こそは本来の活動を行えればと願ってやみません。今後共、会の活動に対しご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。あわせて、山崎文化協会の益々のご発展を祈念しております。

明くる日、やまっ子会のおさらい会を防災センターにて開催し二年振りに皆さんのが笑顔に会えました。

マスク、手洗い、換気、ソーシャルディスタンス等、感染対策は万全にしながら、一番も二番も混ぜませに歌詞も忘れ途切れる事も・・・。それでも楽しく拍手で応援、お昼の食事も黙々と完食、皆高齢ですが丈夫、元氣です。「先生今日は気持ちよく唄えた。まだまだ頑張るワ」との報告があり、うれしく思いました。

昨年やまっ子会二十五周年を開催する予定でしたが、今年も現状を見ると計画を立てる事も難しく、まだ

現在、西播磨県民局は「山城」をテーマに地域の魅力ある観光スポーツ

# 川柳破丸会

長川伸介

釣りいいよ ありがたいけど 丁度です  
長い目で 見たのが裏目 ドラ息子  
ダイエット 効果は顔の シワに出る  
我が財布 札よりレシート 幅きかせ

生田大思案

三密を 避けてゴルフが 密になり  
何でだろ 国栄えても 空き家増え  
水を飲み 空腹しのぐ ダイエット  
鬼嫁に 鍛えあげられ 外弁慶

高橋忘劍家

ドラレコは 聞かれて不味い 暴言集  
GOTOの 原資は税金 倍返し  
中居 絵師

子の歳を 聞いて驚く 年の暮れ

銀メダル 私も同じ シルバーさ

密と黙 無理なく守れる 老夫婦

買い込んで 一安心の 読まぬ本

中指に入った指輪 今小指

忘れてた 面倒だから 忘れとこ

谷口遊愉

成人式 慣れた手つきで タバコ吸い

病院で 会わぬ友人 心配し

反対と言った五輪で 盛り上がり

打つ智弁 守る智弁を見る智弁

金もなく 不要不急が ちょうど良い

マスクせず 大口開ける 鯉のぼり

谷口柳幸

お金より 貯まりが早い 膝の水

家族皆 コタツに潜る 親父ギャグ

船元哲心

知らんけど 話の終わりは いつもこれ

老い先の 見えてる今日も それなりに

入社式 いつまでもつか この初心

一年生 入学祝いは 母に行き

安井楽庵

鞆戸際の ダイヤはついに 輝かず

バーゲンに 目だけメイクのママが行く

返納後 やっと無事故 無違反に

「出ていけ！」 と言った亭主が靴を

履く

関西人 「行けたら行くわ」 は行く

氣なし

省エネと 陽が出るまでは 寝間の中

昨年の「やまさき文化」に、「三〇二一年は、東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催され、明るい話題の流行語や川柳が、数多く世に出ることを祈っています」と書きました。

そのオリンピック・パラリンピックは無観客という形で行われ、少し淋しい気もしましたが、数々のドラマが生まれ、日本中に興奮と感動を与えてくれました。選手の皆さんには、「お疲れ様」という言葉に、心からの拍手を添えて送りたいと思いします。

さて、今年の句は、そのオリンピック、定番の夫婦の悲哀、健康面の不安、老化現象等を抑えて、やはりコロナが中心となりました。くすっと笑つてデルタやオミクロンを吹き飛ばしていただければ幸いです。

百歳のじいちゃん手元に養命酒  
古女房郷に入りすぎ 主となり  
パスポート持たずニコロナ闊歩する

夫婦げんか ネタがあるうち脈もある

菅谷美風

千本風筅

靴を履く さてすることは 何だつけ

と

千本風筅

老い先の見えてる今日も それなりに

入社式 いつまでもつか この初心

一年生 入学祝いは 母に行き

安井楽庵

鞆戸際の ダイヤはついに 輝かず

バーゲンに 目だけメイクのママが行く

返納後 やっと無事故 無違反に

「出ていけ！」 と言った亭主が靴を

履く

長川醉伸







Specialty Camera Shop  
**コニカカメラ**

■本店/〒671-2576  
宍粟市山崎町鹿沢26-3  
TEL(0790)62-2089 FAX(0790)62-7429  
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545  
宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F  
TEL・FAX(0790)63-0533  
E-mail saki@ko-e-1972.com

おつきあい100年宣言  
**ヤマヒロ**

株式会社 山 弘

本社/宍粟市山崎町須賀沢704

■はりまの杜 住宅展示場(姫路店) ■たつの店 ■加古川店

新築 リノベーション リフォーム  
住まいのこと、何でもお任せください  
**0120-12-8076**  
FreeDial

●ホームページ  
<http://www.yamahiro.org>  
こちらからもご覧いただけます▶



**ふじむら貸衣裳**

人生の節目を飾る大切な一着を貴方に

結婚式はもちろん成人式・卒業式・七五三

また留袖や訪問着・喪服のご衣裳など

豊富な品揃えでお客様をお待ちしています。



兵庫県宍粟市山崎町山崎181 Tel:0790-62-0052 <http://www.fujimura-kashiishou.com>

贈り物に…「しそう杉ボールペン&シャープペン」

三菱鉛筆「故郷（ふるさと）の木持ち」シリーズは、地球温暖化と地域材振興策に「少しでも役に立つ商品」をコンセプトに作られた筆記具です。全国の都道府県産のスギ、ヒノキ、ヒバ、マツ等に高度な木材の加工技術を施したもので、適度な重さが高級感を醸し出しています。兵庫県では「しそう杉」が選ばれています。「しそう杉」のほのかな香りをお楽しみ下さい。



¥2,000 + 税

さらにレーザー彫刻（オプション）であなただけの1本に…

参加賞、記念品に…しーたんステーショナリー各種あります！

**トクサヤ文具**

山崎町山崎 180-1 TEL62-0067

ほっと、ひといき 伊沢の里

○お祝いの会食 ○法要後の会食・仕出し  
その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宍粟市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380



森の妖精/ネーチャ

地域で最も信用・信頼される  
金融機関をめざして



●豊かな街づくりをお手伝いする●

**西兵庫信用金庫**

<https://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

TEL 0790-62-2020



森の妖精/サッキー

## 電気代がとにかくおトクな **ENEOSでんき**

電力会社への解約手続き・  
切替え工事は不要！

あなたも今すぐ、  
おトクを実感！

※オール電化住宅は対象外とします。



= お車と住まいの快適、なんなりと =

**ホンジョウ**

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)

本社 宍粟市山崎町中井 96

石油・電力・オイル・洗車  
タイヤ・車両整備・バッテリー

TEL 0790-62-4321

電気・ガス・水道工事・家電全般  
住宅リフォーム・太陽光発電

TEL 0790-63-1234

不動産のことならお気軽にご相談下さい

土地・建物・売買・仲介・マンション・アパート賃貸

**株式会社ファースト商事 エイブル**

親切丁寧をモットーに社員一同皆様のご来店をお待ちしております。



株式会社ファースト商事  
エイブルネットワーク山崎店  
宍粟市山崎町今宿 21番4  
TEL 0790-62-0001  
FAX 0790-62-4787

株式会社ファースト商事 福崎店  
エイブルネットワーク福崎店  
神崎郡福崎町西田原 1821番4  
TEL 0790-22-1235  
FAX 0790-22-1236

つくるでつなぐ



UEBAYASHI

**上林建設株式会社**

〒 671-2554 兵庫県宍粟市山崎町御名226番地1

TEL.0790-62-2828 FAX.0790-62-7186

イメージ キャラクター  
けんちくん

各種新車・中古車・介護車輌販売 リース 車買取  
民間車検 整備 鈑金・塗装 ボディーコート ETC

↙まごころサービス↙

**光徳自動車販売株式会社**

〒671-2542 兵庫県宍粟市山崎町船元242

TEL **0790-62-1780**

E-mail: koutoku@gol.com